

## 新島先生にとってのアメリカの父・ハーディー（2）

副校長 竹山 幸男

7月も後半になりました。7月の初旬には、全国的に局地的な大雨が降り、各地でさまざまな被害が出ました。特に、九州の熊本、球磨川の氾濫では、過去に経験したことのない雨が一晚のうちに降って犠牲になる方が出て、多くの住民の方が今なお避難所で過ごされ、また被害の対応にあたっておられます。その後も、九州では、福岡の筑後川、大分の日田、鹿児島島の鹿屋、そして、島根の江の川、岐阜の下呂など、局地的な大雨をもたらす線状降水帯が発生した広い範囲の地域において、川の氾濫や土砂崩れなどによる被害が報告されているところです。学校の近辺の鞍馬や貴船でも土砂災害が起きていて、近くの公立小中学校も休校になりました。雨がやみ、晴れ間も見えたこの数日間は、暑さも真夏に近づき、京都では35度近くになった日もありました。マスクをしている日々の生活なので、水分補給をしっかりと行うとともに、熱中症には十分気をつけてください。オリンピックを予定した7月の4連休も梅雨前線が日本列島の上であり、まだまだ大雨に注意をしなければならない状況が続いています。今年の梅雨明けは7月下旬で、例年より遅くなりそうです。大雨の心配をすることのない、真っ青な夏らしい青空を早く見たいですね。生徒、保護者の皆さんのお住まいの地域はいかがでしょう。皆さんの中で、今回の大雨による被害に遭われた方がおられる場合には、学校までご連絡いただきますようお願いいたします。

夏の青空を駆け上る飛行機雲（写真：<https://www.beiz.jp/>より）

現在の感染症の感染状況については、東京で300人近くの感染者が確認されるとともに、大阪でも100人を超え、愛知、兵庫、京都、滋賀、奈良各県においても、1日あたりの感染者数が過去最高になっています。関西エリアにおいても、7月中旬より感染者増加の傾向が見られたため、通勤通学時間帯の感染リスクを避けるために、時差登校、下校を継続し22日までの登校を行いました。今週（7月27日～）については、個人面談、自由研究直前準備期間、ならびに補習、学びプロジェクトも実施されます。登校をしない日も、しっかりと自由研究にも取り組み始めてくださいますようお願いいたします。自由研究に用いるための本、テーマについての調べ方などわからない場合には、27日～30日に図書・メディアセンターを開館していますので、ぜひ利用するようにしてください。自由研究のやり取りは、Google Classroomで行います。その利用方法がわからない場合には、校務センターに問い合わせ、立ち寄っていただきますようお願いいたします。（担当：教務部）なお、体調不良、感染状況への不安等のため、自宅待機される場合につきましては、面談等もzoomなどを用いて行うことも可能ですので、学校または各クラス担任までご連絡いただきますようお願いいたします。大雨、その他の事情により休校になる場合には、学校からの全体へのお知らせに合わせて、担任や担当の先生から当該休校日の予定の入っている生徒の皆さんへの連絡がありますので、確認するようにしてくだ

さい。

1学期これまでの生徒の皆さんからの質問、相談については、教科の内容であれば教科の先生へ、学校についての相談であれば担任の先生へご遠慮なくご連絡ください。感染症の状況については、まだまだ予測が難しい面がありますが、海外の状況と対応、そして、医療関係の専門家の方々の提言など、さまざまな状況を総合的に考慮しながら、今後も学校としての対応方針を考えていきます。同志社中学校では、中学生という発達段階での健康面への配慮や、京阪神はじめ近畿圏、ならびに愛知、岐阜などからも新幹線通学で通っておられる生徒の皆さんも多くおられことも考慮しつつ、生徒のいのちと健康を守ることを最優先にしながら、2学期以降の学校としての対応も慎重に検討しているところです。ご理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

さて前回は、6月第3日曜日の「父の日」とのつながりで、新島先生の手紙や説教などから、アメリカでのお父さんであるハーディーさんについて学びました。今週は、その続きをさらに学んでみたいと思います。

1887年8月7日に、新島先生のアメリカの父であったハーディーが亡くなりました。当時、札幌で静養中だった新島先生は、京都からの電報で、その知らせを受けます。追悼礼拝説教の中でも書かれているのですが、新島先生は、悲しみのあまりその夜からしばらく寝込んでしまいました。気を取り直して、ハーディー夫人あての手紙を書いたのは、それから10日後のことでした。（引用「現代語訳新島襄」202～203頁、「新島襄全集6」315頁）そこでは次のようなことが書かれています。『手紙を書こうとすると、何もかもが混乱して收拾がつかなくなります。机に向かい、ペンを取ったのですが、何もできませんでした。もちろん、天の父がハーディーを至福の天に招かれたのは分かっています。すべての事柄を神の御手に委ねなければならないことも十分理解しています。・・それでも、とてもつらく、寂しく、実の父が亡くなったように感じます。いや、実の父以上の存在で、日本の友人以上に日本のこと、私のことを理解してくださっていました。つい最近（8月19日）の日本で見られた皆既日食のように私の心は暗く閉ざされています。』とその意気消沈した様子を伝えています。『陽気さも明るさも突然消え去りました。大気は冷え、温度は下がっています。』と当時の日食の様子と、新島先生の気持ちを重ねています。そして、ハーディー夫人の悲しみを慰め、慮るとともに、『これからは常に強くて永遠なる神様の御腕を信じて頼るよう』願っておられます。ちょうど、先月、日本でも日食が見られたのですが、新島先生は、133年前に、同じように日本で皆既日食を見られていたことを知り、とても驚くとともに、ハーディーが天上に召された悲しみの気持ちとそれを重ね合わせておられたことにも興味深く感じました。この手紙を書くのも、悲しみをこらえて精一杯の力を振り絞って書いたことがわかるのですが、数週間は何も仕事に手がつかないほどの落ち込みでした。その後、京都に戻ってからも心の整理ができず、3カ月

たった11月20日の日曜日、やっと「アメリカの父—ハーディー」の追悼礼拝が行われ、新島先生が1時間余りの追悼記念の説教をす



ハーディー (A. Hardy 1815-1887)

ることができました。まず、その説教の中から、新島先生とハーディーのつながり、ハーディーのキリスト教信仰、そして生き方を見ていきましょう。（「新島襄自伝一手記、紀行文、日記」（同志社編）岩波文庫、「新島襄全集」2巻408頁）

追悼説教の最初に、新島先生はハーディーのことを「友」であり、「恩人」であり、「アメリカの父」と紹介しています。そして、ハーディーの住まいが、州議事堂のすぐそばにあり、議事堂の前のホレス・マンの記念像の下に刻まれている言葉「YET LIVE」を思い出し、ハーディーもまた新島先生の心の中に生きている（YET LIVE）と信じていました。ここでも、「恩人」という言葉がとても多く用いられ、新島先生にとっては今の自分がハーディー抜きには考えられないことが伝わってきます。そして、その恩恵は、新島先生だけではなく、アメリカの大学の先生、牧師、宣教師たちにも、YET LIVEしていることを伝えていきます。YET LIVE（彼死するも尚生きるなり）という言葉は、聖書の中にもあり、キリスト教の考え方によれば、主イエスキリストの救いにより、誰もが永遠のいのちを得て天国で生きることができるといふ信仰にとどまらず、主イエスキリストとともに歩んだクリスチャンが、その生き方や生涯を通じて行われたことならについては、なお、のこされた私たちの中で生き続けるという信仰に立って語られていることがわかります。



同中生の BOSTON 研修でも、マサチューセッツ州議会議事堂を見学に行きました。



ハーディー家の墓がある、マウント・オーバン墓地 (Mt. Auburn Cemetery) BOSTON ケンブリッジ市にあり、ハーバード大学から徒歩 20 分でいける

以前、同志社の大学を含むいろいろな学校の先生方とともに、新島先生の足跡を訪ねるということで、新島先生が到着したボストン港、ハーディーと会うまで3か月間おられた海員ホーム、州議会議事堂、ハーディー家も訪ねたことがあります。当時、州議会議事堂のすぐ近くにレンガ建てで住める住宅があった、ということは、当時アメリカの中心であったボストンの一等地に住めるだけの経済力や政治力をハーディーが持っていたことが伺えます。そして、ハーディーのお墓も何度か訪ねました。アメリカのお墓のある墓地は、日本と異なり公園のようになっていて、道や番地もついています。ハーディーのお墓も、ひと山全体が墓地となっているとても大きな公園ところにあり、最初行ったときには探すのにとても時間がかかりました。同志社中学校の生徒の研修のコースに入れた年もあるのですが、そのときは、前もって場所を調べていったので、すぐに見つけることができました。ハーディーのお墓には、大実業家のお墓としては簡素なもののような印象を持ちましたが、多くのクリスチャン、宣教師のお墓には、聖書の言葉やメッセージが刻まれています。

例年1年生のオリエンテーションで訪問する同志社の若王子の墓地にも、いろいろなメッセージが刻まれているので、次の機会には、ぜひ興味を持ってどんなメッセージが書か



れているか見てみてください。

もう一度、新島先生の追悼説教に戻ってみます。もともとハーディーは、テーラー船長の家のあったチャタムに生まれたのですが、父の航海業を継がず、周りの人と同じようにチャタムでの農業をしないで、勉学に力を入れて、フィリップス・アカデミーに学び大学入学をめざして学ぶこととなります。しかし、病気と学費が払えないことを理由に、退学することとなります。もし、学問の道に進んでいたらきっと大きな成果を修められたらと思うのですが、神様の摂理は、ハーディーを学問の道に進む人を導く人として歩むよう導かれたのです。学費が払えなかったことについては、ある日、自分がボストンの街中（ワシントン街）に一緒に行ったときに、ある広い場所で立ち止まり、思い出を語ります。

『フィリップス・アカデミーを去りここに来た時、手持ちのお金は50セントでした。この街頭にたたずんで、手をポケットに入れて今晚はどこか泊めていただける場所があるのか、これからどのようにして自分の生計を立てていけばよいかなどいろいろな心配が浮かび悩んでいたところ、それを見ていた1人の方（貴人）が声をかけてくださった。「少年よ。何を思案しているのか。」私が思いを語ると、その方（貴人）は私をお店に連れて行って雇ってくださいました。そして、簿記の仕事をしながら、商売を学び始めたのです。今の私のビジネスは、50セントから始まったのです。』新島先生の「恩人」となり、「隣人愛」を実践したハーディーもまた生涯の中で本当に途方に暮れたとき、自分ではどうしようもない状況の中で「貴人」より「隣人愛」を受けた経験があったのです。この追悼説教の中でも、これまで紹介してきた「神様の摂理」による新島先生とハーディーとの「ボストン港での出会い」が語られています。

その後、ハーディー夫人（スーザン）と出会い結婚。ハーディーが事業を成功に導けたのも、「神様を敬い、キリストを信じ温和で賢明な」スーザンとの出会い、助けのおかげと説明します。子どもたちは、1人はダートマス大学教授、3人はビジネス界で活躍。ハーディーは、「賢明なる婦人と最も喜ばしい生涯」を送り、世の人からもとても尊敬され、信望も厚く、高い地位も得て、ふつうの人では到底成し遂げられない事業も行いました。「賢く判断力に富む」「慈善の働きに富める」と言われたほどです。謙遜で快活、静かな中に威厳があ



ハーディー夫妻 (A. ハーディーとスーザン)

り、温和な雰囲気も醸し出して、老いも若きもお会いしてお話したいと思う君子のような風格がありました。（Gladstonian Face, 詩人のような風貌）このような「天賦の美質」が与えられ、神様を敬い、主イエス・キリストを信じる「宗教上の美德」もあり、その生涯は自分のためではなく、人のため、神のために送られたのでした。世の人から信望を得ても、事業の成功があっても、慈善の働きを成しても、畢生（生涯）の目的は、「神様のみこころを行うこと」にあったのです。そして、少し休養してもよい年代に達しても、70歳を超えてもなお、ハーディー商会の事務局に出向き、かくしゃくと仕事をなされました。5月の不意の怪我がもとで8月7日の日曜日、オールドサウス教会の礼拝のための鐘の音が終わらないうちに、天に召されたのです。『このこともまた神様のなさったことであれば、私は受け入れます。天国に行かれたのですから、泣いてばかりおられません。今日からあなたの志を継ぎ、志を空しく地に落として

しまうのではなく、実を結ぶものにしていけば、あなたも満足していただけるものと思います。』新島先生が語った応答のひとつです。

ここで、新島先生はハーディーの人柄について、3つの視点で語り始めます。

1つ目は、「信用が深い人」。ボストンに、モントゴメリー・シアーズという富める方がいたのですが、病気で亡くなる時に、100万ドルの資産と1歳の子どもをハーディーに託されました。預かった子どもを育て上げ、資産も700万ドルに増やしました。鉄道会社の社長となったときには、その資本を、そして、アーモスト大学、フィリップス・アカデミーの理事とな



モントゴメリー・シアーズの息子：J.M.シアーズ

ったときには、資金を加え教員を招きました。また、25年間のアメリカン・ボードの運営委員長のときには、積極的に海外宣教を推し進めました。盛んに伝道の業を広げ、伝道師（宣教師）の必要や、伝道師の子どもの教育を助けることなどもよくお聞きしていました。そのうち17、8年間は日本伝道のために最も力を尽くされ、今の同志社があるのも、ハーディーの尽力によるものと断言できます。



アメリカン・ボードの証

2つ目は、「成功の人」。事業を始めれば必ず成功に導く、誰もしていないことがあっても、取り組みれば何必ず何とかできると確信しています。そのための要件（資格）として、つぎのようなものがあげられます。

- 1：聖書を好んで（よく）読んで、常に祈祷（お祈り）をしていること。
- 2：コモンセンスと判断力に富み、見きりがよく、時機を誤らないこと、
- 3：怠らず智識を養成し、すぐれた友を見つけること、
- 4：勉強、仕事を一生懸命すること、
- 5：注意力を大いに持つこと、
- 6：人情を理解して、人を見分けること、
- 7：「活眼」をもって、今昔の歴史を見定め、いろいろなことに取り組む助けとすること、
- 8：今の状況を明らかにして、将来を予測すること、
- 9：無益に金銭と時間を費やさないこと、
- 10：非常の働き（突然の事への対処）のために、休息も取り、美術を愛して鋭気も養うこと、
- 11：事々に少しも油断のないこと。

具体的な事柄は語りつくさないものがありますが、1つあげるとすると、ボストン大火の際、人々が途方に暮れ、「何を初めにすべきか」と問われたときに、「月曜日の朝早く、まずレンガ石を集めること」と答え、誰よりも早くレンガで仮住まいをつくり、貸し出すというこ

とを行い、助けられた人が多くあったこともよく知られているところです。（その見識などが、州選出の上院議員ならびにボストン市長候補推薦にもつながっているものと思われます。）学び続ける姿勢については、自分（新島先生）も実際見たことですが、イギリス、アメリカで新しいお勧めの書籍が出た場合には、それを手に入れて多忙な時間の合間を見つけて本を読まれていたこと。そして、聖書にも精通して、いろいろなところに印をつけて、面白い聖書の言葉があれば、よく紹介されていたこと。「もし、賢明なる人を見つけたなら、会うために朝早く起きて、自分の足でその方の家の前で待ってみましょう。」（旧約聖書外典：シラ記6章36節）ヨーロッパ、エジプト、パレスチナも何度も訪ね、現地での学びも深められました。美術も好きだったので、イタリアでは、キリストのたとえ話の10人の娘を現す2人の大理石の人形を3千ドルで買い取られたという話もあります。3千ドルは高価でぜいたくなものという考えがよぎったそうですが、「もし少年のころから巻きたばこ代、遊技場に行っていれば・・・」と計算すると、それよりは安いということで、購入する決断をされました。

3つ目は、「慈善の人」新島先生は、「慈善家というよりも、善かつ忠なるクリスチャン（Good and Faithful Christian）」と呼ぶ方がよいと語っています。慈善の働きを「畢生（生涯）の目的」とされたのは、神様の愛、キリストの愛に満たされて促されたもので、自分のためでなく、その働きによって神様の栄光を世に現わすことのみを求められました。世の人に知られている者も多いのですが、知られていない「隠徳（隠れて見えない徳）」についてもどれだけあるかわかりません。そして、ここでもハーディーが私財を投じながら資金面で助けられたこと、アメリカン・ボードの運営においては、盛んに伝道にいそしみ宣教師やその子女教育にも、とても尽力されていたことが語られます。慈善家のまとめとして、何よりも、新島先生が受けた「隣人愛」について語り、「8年間の学費、同志社が創立されたこと、そして、同志社において微力ながらその学校運営にかかわることができることもハーディー夫妻の好意」によるもので、「神様が日本に贈られた恵みの賜物」と理解して、感謝しなければならない、としています。

追悼説教の締めくくりとして、新島先生は次のように語ります。

『ハーディーの生涯を振り返るときに、「キリストの真をもって、精神を養成し、品格を組み立て、それをもって社会や同朋（隣人）に尽くす手本」となられた人物でした。あなたは天上に行かれました。これは「神様の摂理」であるとする、私たちは最早泣いてばかりおられません。本日主の聖日に、同志社教会ならびに全校生徒に向けて、ハーディーの生涯を心にとめて、彼のように主のために全身全力を捧げてくださるなら、「彼死するも尚生きるなり」ということができ、私（新島先生）自身もとても満足なことです。』

アメリカの父・ハーディーの生涯をふりかえりながら、私たちもまた150年後の同志社で学ぶ生徒として、新島先生からのメッセージを心にとめていきましょう。「成功する人」ハーディーの11のポイントについては、今の時代の私たちにも通じるものがあります。ぜひ、どれくらい自分にあてはまるか考えてみましょう。その成功の秘訣においても、新島先生がまず最初にあげられたものが、「聖書に精通し、常に祈っていること」これは、キリスト教主義学校で学ぶ私たちにも今でもとても大切なことです。そして、何よりも、アメリカの父・ハーディーが、その生涯を通じて現した、ビジネスの世界、教育の世界、キリスト教会の世界など、さまざま

な分野での「隣人愛」の実践。1学期の締めくくりにあたり、今年の同志社中学校の年間聖句（イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」（マタイによる福音書22章37節、39節）「受けるよりは与える方が幸いである。」（使徒言行録20章35節））の聖句を覚えて、今そしてこれからの皆さんの未来の中で、どのように神様から与えられたもの：タラント（能力、賜物）をお返ししていくか、「隣人愛」を実践していけるか、をぜひ考えてみましょう。アメリカの父・ハーディーの生き方、そのスピリットが、新島先生の中で、そして、その当時の同志社の教職員、生徒だけでなく、150年後の私たちにも生き続けることができるようお祈りしていきたいと思います。



同志社大学 今出川キャンパスにある寒梅館には新島先生のアメリカの父 A.ハーディーにちなみ「ハーディーホール」がある

「イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二もこれと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイによる福音書22章37節～39節）

「受けるよりは与える方が幸いである。」（使徒言行録20章35節）

YET LIVE :彼は死するも尚生きる。

「彼は死にましたが、その信仰によって、今なお語っています。」（ヘブル人への手紙11章4節）